

心のバリアフリー

私はこの前、学校のじゅ業で、耳にしょうがいがある方とお話ししたり、ミニ手話体けんをしました。最初は、しょうがいを持つ方と会うのがちよっぴりこわかったけれど、会ってみるとそんなことはありませんでした。

いろいろなことを教えてもらいましたが、私は、手話が一番楽しくて、心にのこっています。覚えたのはあいさつなどほんの一部だと思いますが、ふだん私たちが話している言葉が手話でも同じようであって話せることにおどろきました。

また、さいがいのときなど放送だけだと何がおきたか分からなくて困ります。と言っていました。私は文字で案内したりテレビのような物で伝えられるといいかなあと思いました。

しょうがいを持つ方のあたり前と、私たちのあたり前は、ちがうと思います。おたがいに不安や心配もあると思うけど、やさしい気もちや思いやりで、安心がふえるといいなあと思いました。



ペンネーム M♡Y

笑顔をお届けしたい

濱田 かつり

世界中に猛威をふるった新型コロナウイルス感染症をきっかけに、これまで当たり前だった生活が一変した。自粛するようになり、街中では口元が見えないマスクをしている人が溢れている。思いもしなかった光景だった。きこえない私にとって手話だけでなく、顔の表情から言葉を得ている。コミュニケーションでは欠かせない大切な読話ができなくなってしまった。ろう者は手話だけではなく、口話、表情で理解していく。通じ合える大切さを知ってもらえるきっかけができれば、この社会は優しい街になるかもしれない。

私はきこえないけれど、表現者としてアコーディオン活動を通して、障がいのあるなしにかかわらず、大変な世の中を乗り越えていけたらと思っている。透明マスクを使い、以前と変わらない社会になってほしい。少しでも寄り添えるように何かを見つけていきたい。街中で、透明マスクでアコーディオンを弾きながら、今のコロナ禍を乗り越えていこうと皆に伝えていきたい。

透明コミュニケーションマスクを開発してくださったお陰で、以前と変わりなくコミュニケーションができてうれしく思う。

